

桐島こより

一ミリメートルの海

月曜の一時間目

校舎三階の端の音楽室

窓際のエレクトーンに近づくと

微かに海が見えた

この学校から唯一海へと開かれた場所

私の数少ない希望

また一週間生きられたという確認作業

毎回初めて見つけたような新鮮な悦びが駆け巡る

花も 木漏れ日も 雨も 雪も

すべてはあの海へ隠す

風に乗せて海へ運ぶ

わたしのことばと共に隠す

誰も知らない刹那の祈り

生命の揺らぎすべてを託す儀式

チャイムが鳴る

全員で起立し十字を切る

遠く離れた今も

月曜日の朝は爪の先のその先に

あの海が広がる

希望に満ちた光り輝く海が